CORE
Metadata, citation and similar papers at core.ac.uk

ポストモダンにおける大学生の成長モデルと時間的展望獲得に関する探索的研究

著者名(日)	佐久田　祐子，奥田　亮，川上　正浩，坂田　浩之
雑誌名	大阪樟蔭女子大学研究紀要
巻	5
ページ	236
発行年	2015-01-31
URL	http://id.nii.ac.jp/1072/00003921/

BY-NC-ND

ポストモダンにおける大学生の成長モデルと時間的展望獲得に関する探索的研究

心理学部　心理学科　　佐久田祐子　　心理学部　心理学科　　川上　正浩
心理学部　臨床心理学科　奥田　　亮　　心理学部　臨床心理学科　坂田　浩之

本研究の目的

本研究の目的は，大人社会の権威が失墜し，価値観が多様化したポストモダンを生きる現在の大学生にとっての“成長”を把握することにある。現代大学生の成長の実際を正しく把握し，現在の大学生に時間的展望を与える“大人になる”“成長する”イメージを提供することは有益なことである。本研究では，大学生が 4 年間の学生生活の中でどのように成長するのか，その実際を記録し，これを分析し，いくつかの変容パターン（成長モデル）を抽出することを目指す。ここでは，大学入学から 2 年次春までの変容パターンを提示する。

方法

調査対象者　本学心理学部大学生 28 名。

実施時期　1 年次入学時（2011 年 4 月），1 年次秋（同 11 月），および 2 年次春（2012 年 5 月）。

調査内容　調査対象者に対し，上記調査時期の 3 時点で，表 1 のような大学生活の実際と現在の思いに関する質問について一問一答形式で回答を求めるインタビューを行い，それをデジタルビデオで記録した。

表 1　質問項目

Q1. これからの大学生活を，どのように過ごしたいと思っていますか？
Q2. 大学生活で，あなたが一番楽しみにしていることは何ですか？
Q3. 大学生活で，あなたが一番不安に思っていることは何ですか？
Q4. 心理学とはどういう学問だと思いますか？
Q5. あなたの将来の夢を教えてください。
Q6. 「今の自分」をひとことで表現すると…？（その理由は？）

結果と考察

これからの過ごし方についての問い（Q1）に対して“楽しく過ごしたい”“充実させたい”といった漠然としたビジョンが述べられるか具体的な目標に言及されるか，また不安（Q3）に対して，進路や就職といった長いスパンの不安（卒業後不安）に言及されるか，に注目した。Q1 に対し，漠然としたビジョンが述べられる回数により，学生を Ve0（0 回），Ve1（1 回），Ve2・3（2, 3 回）に分類した。また Q3 に対し，卒業後不安が述べられる回数や時期により，学生を Fa0（0 回），FaI（1 年次秋から 2 年次春），FaM（1 年次秋のみ），Fa3（3 回）に分類した。両観点からのクロス表を作成し学生を配置したのが図 1 である。図 1 ではさらに，彼女らの各インタビュー時の将来の夢がどの程度具体的であるのかを 5 段階で評価し，記載している。

図 1 から，将来について気になりだすも現状の目標としては，とりあえず“楽しく”と漠然とした目標のまま日常を過ごすものが彼女らのメジャー層であることが見て取れる。これに対して，入学当初から卒業後不安に言及することなく，一貫して“楽しく過ごしたい”と述べる層（対極層 1）と，将来について気になり出す一方で資格などの具体的な目標に言及しだすもの（対極層 2）とが存在する。

以上から，ポストモダンを生きる現在の大学生は，大学入学から 2 年次春にかけて，①概ね大学生活を“楽しく”過ごしたいと感じていること，②時間的展望に基づくと考えられる将来に対する不安を口にするようになること，③大学生活を“楽しく”過ごしたいと感じ，将来に対する不安がない学生は，意外と目標が具体的であることが示唆された。ポストモダンの大学生が，概ね大学生活を“楽しく”過ごしたいと感じていることに関しては，自分のまわりに漂う慢性的な空虚感を取り払うために一生懸命楽しもうとしている（香山，2002）可能性がある。

本研究で得られたポストモダンにおける大学生の大学入学から 2 年次春までの変容パターン（成長モデル）に関する仮説は，4 年間を通じての成長を追うことで検証される必要がある。

＊この研究は，日本教育心理学会第 56 回総会にて発表された。

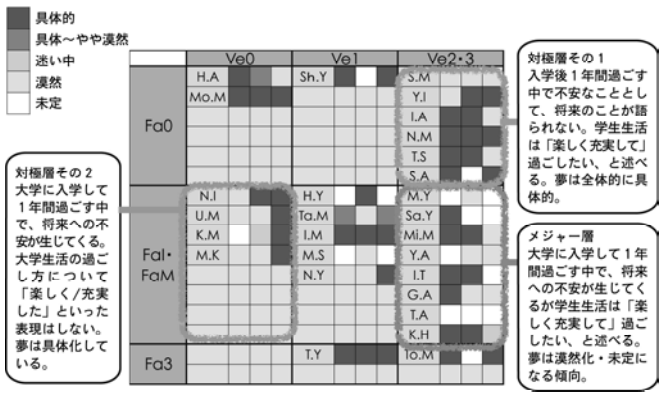

図 1　Q1 と Q3 に対する回答による学生の分類